

Ⅲ ヒアリング調査からみた企業の声

1 製造業

(1) 一般機械器具

【景況感】

- ・半導体関連の受注が増加しており、好況である。
- ・中国向け、自動化設備等の需要が強くなり景況感は良好である。
- ・感染症の影響により、不況である。

【売上高】

- ・半導体関連の受注が好調であり、売上高は増加した。
- ・前年は感染症の影響で受注3割減だったが、現在は感染症以前の水準に戻っている。
- ・医療分野、食料品製造関連の受注は変わらず、売上高はあまり変わらない。

【品目別の状況】

- ・半導体製造装置向けは増産依頼が増えている。
- ・生産用機械関連の受注は回復傾向にあるが、未だコロナ前の8割程度である。

【受注単価】

- ・原材料価格の値上がり分を価格転嫁し、受注単価が上がった。
- ・受注単価はあまり変わらない。

【原材料価格】

- ・主要原材料の鋼材が5～6%上がった。
- ・樹脂部品を中心に原材料価格が上がった。
- ・原材料価格はあまり変わらない。

【その他諸経費】

- ・諸経費はあまり変わらない。
- ・システム関係費、修繕費等が増加した。

【採算性】

- ・売上増加により前期比、前年比とも収支は良くなった。
- ・受注増加により工場の稼働率が高まり、収益性が向上している。
- ・採算性はほとんど変わらない。

【設備投資】

- ・製造能力増強のため工作機械を新規に導入した。
- ・設備投資は実施しなかった。

【今後の見通し】

- ・半導体製造装置向けの受注は年末まで好調維持見込である。
- ・先行きも好況が続くとみている。
- ・今後はどちらともいえない。

(2) 輸送用機械器具

【景況感】

- ・景況感は普通である。
- ・半導体不足による自動車の生産減の影響が出てきている。

【売上高】

- ・自動車、トラックともに売上高は増加した。
- ・売上げは前期比で12%増加した。
- ・自動車関連の受注が増加した。

【受注単価】

- ・受注単価はほとんど変わらない。

【原材料価格】

- ・原材料価格はほとんど変わらない。
- ・原材料価格は上がった。

【その他の諸費用】

- ・諸経費はほとんど変わらない。
- ・切削工具費用が増加した。

【採算性】

- ・採算のとれる製品売上げが多かった。
- ・業務効率を見直し、時間外費用を削減したため採算性が良くなった。
- ・売上増加により採算性は良くなった。

【設備投資】

- ・設備投資は実施しなかった。
- ・新製品対応を目的とした設備投資を実施した。

【今後の見通し】

- ・先行きは良い方向に向かうとみている。
- ・半導体不足による自動車の生産台数調整が予想されるため、どちらともいえない。
- ・7～9月は売上げが増加するが、半導体不足の影響が出てくるとみている。

(3) 電気機械器具**【景況感】**

- ・化粧品関連の受注が落ち込んでおり、景況感は不況である。
- ・景況感は好況である。

【売上高】

- ・化粧品関連の売上高が減少した。
- ・海外向けの販売が回復し、売上高は増加した。
- ・半導体関連の受注が増加したことから、売上高は増加した。

【原材料価格】

- ・原材料価格はほとんど変わらない。
- ・原材料価格は銅価格が上昇傾向となっている。

【その他の諸経費】

- ・修繕費が前年同期比で上昇した。
- ・諸経費はほとんど変わらない。

【採算性】

- ・採算性は良くなった。
- ・採算性はほとんど変わらない。
- ・半導体関連が好調で売上高が増加し、採算性は良くなった。

【設備投資】

- ・実施しなかった。
- ・増産を目的とした設備投資を実施した。

【今後の見通し】

- ・先行きは悪い方向に向かうとみている。
- ・先行きはどちらともいえない。

(4) 金属製品**【景況感】**

- ・景況感は不況である。
- ・自動車、産業機械の回復が不十分である。
- ・半導体関連は安定しているが、景況感は普通である。

【売上高】

- ・売上高は減少した。
- ・売上高は前期比で5%、前年同期比10%増加した。

【受注単価】

- ・受注単価は変わっていない。
- ・売上高が減少しており、原材料価格を受注単価に転嫁できていない。
- ・受注単価は前期比で変わらず、前年同期比で一部上がった。

【原材料価格】

- ・原材料価格は全体的に値上がりしている。
- ・鋼材価格が上昇した。
- ・原材料価格は前年同期比で上がった。

【その他の諸費用】

- ・諸経費が前年同期比で増加した。
- ・その他諸経費はあまり変わらなかった。

【採算性】

- ・原材価格の上昇が影響し、採算性が悪化した。
- ・採算性は良くなった。

【設備投資】

- ・昨年設備投資を実施したため、今年は設備投資を実施しなかった。
- ・生産情報可視化を目的とする設備投資を実施した。

【今後の見通し】

- ・感染症の収束次第であり、どちらともいえない。
- ・半導体関連のみ良い方向だが、全体としてはどちらともいえない。

(5) プラスチック製品**【景況感】**

- ・好況である。
- ・医療関連、食品関連は好調である。

【売上高】

- ・売上高は増加した。
- ・売上高はほとんど変わらない。

【受注単価】

- ・受注単価はほとんど変わらない。

【原材料価格】

- ・原材料価格はまだ変わっていないが、値上げ要請が来ている。

【人件費】

- ・人件費はほとんど変わらない。
- ・定期昇給分の人件費が増加した。

【採算性】

- ・採算性はほとんど変わらない。

【設備投資】

- ・今後製品在庫用の倉庫を新設する予定がある。
- ・設備増強の投資予定がある。

【今後の見通し】

- ・先行きは良い方向に向かうとみている。
- ・先行きは現時点ではどちらともいえない。

(6) 食料品製造**【業界の動向】**

- ・廃業が増えている。
- ・老舗メーカーの廃業が出てきている。

【景況感】

- ・景況感は普通である。

【売上高】

- ・売上高は増加した。
- ・昨年はコロナ特需があったため、前年同月比で売上高は減少した。

【受注単価】

- ・受注単価はあまり変わらなかった。

【原材料価格】

- ・原材料価格は上がった。
- ・前年同月比で5～10%上がっている。

【人件費】

- ・人件費はあまり変わらなかった。
- ・人件費は増加した。

【採算性】

- ・原材料費が高騰し、採算性が悪くなった。
- ・採算性の悪い商品を止めたため、改善された。

【設備投資】

- ・新工場を建設する。
- ・設備更新含め製造ライン強化の設備投資を実施する。

【今後の見通し】

- ・先行きは良い方向に向かうとみている。
- ・昨年は感染症による巣籠もり特需があったため、前年比で売上高は減少見通し。

(7) 銑鉄鋳物**【景況感】**

- ・不況である。
- ・自社の景況感は好況である。

【売上高】

- ・売上げはあまり変わらない。
- ・工作機械用鋳物部品が好調で売上高は増加した。

【受注単価】

- ・受注単価は一部上がったが、ほとんど変わらない。

【原材料価格】

- ・原材料価格は上昇した。

【人件費】

- ・人件費はほとんど変わらない。
- ・売上増加に伴い人件費も増加した。

【設備投資】

- ・設備投資は行わなかった。
- ・リフト、電気炉等の既存設備更新を目的とする設備投資を実施した。

【今後の見通し】

- ・先行きは悪い方向に向かうとみている。
- ・今後良い方向に向かうとみている。

(8) 印刷業**【景況感】**

- ・景況感は不況である。
- ・緊急事態宣言の再発令で景気の動向が著しく悪くなった。
- ・イベント中止に伴い、印刷需要が減少している。

【売上高】

- ・売上高は減少した。
- ・前年同月が過去最悪の売上水準であり、現在も同水準の売上となっている。
- ・5月、6月の売上が落ち込み、売上高は前期比で減少した。

【受注単価】

- ・価格は維持しているが、受注が減少しているため客先からの値下げ要求は多い。
- ・ほとんど変わらない。

【原材料価格】

- ・産業廃棄物業者からの値上げ要求があり、原材料価格は上昇した。
- ・原材料価格はほとんど変わらない。

【採算性】

- ・客先とテレワークによる打ち合わせが増え、コミュニケーション不足による作り直しなどで採算性が悪くなった。
- ・ほとんど変わらない。
- ・コスト削減により、採算性は良くなった。

【設備投資】

- ・設備投資は実施しなかった。
- ・設備投資の予定はない。

【今後の見通し】

- ・低迷が継続する可能性が大きい。
- ・感染症の収束次第だが、どちらともいえない。
- ・客先の一部で受注の動きが活発化しているが、依然受注量は芳しくない。

2 小売業

(1) 百貨店

【景況感】

- ・景況感は不況である。
- ・小規模店やサテライトショップの閉店が続いている。

【売上高】

- ・衣料品は臨時休業の影響で厳しい状況が続くが、食料品は前年同期比130%超と伸長している。
- ・化粧品は外出自粛が継続するのであれば見通しは厳しいが、宝飾品は富裕層の購買意欲が拡大しているため、伸長が期待される。
- ・厳しい状況が続いており、今後も売上高は減少するとみている。

【諸経費】

- ・人件費は自然減が続いている。
- ・広告宣伝は紙面縮小等により経費削減した。

【採算性】

- ・宝飾品の売上げが伸び、採算性が良くなった。
- ・衣料品も多少の回復傾向にあるが、引き続き厳しく売上減に伴い採算性が悪くなった。

【今後の見通し】

- ・長引く感染症の影響により消費動向の不透明感が続き、悪い方向に向かうとみている。
- ・ワクチン接種が進み、客足が戻ってくれば良いが、感染者の減少が不透明なため見通しはどちらともいえない。

(2) スーパー

【景況感】

- ・食品スーパーは巣籠もり需要が堅調で好況である。
- ・景況感は普通である。

【売上高】

- ・飲食店の酒類提供自粛に伴う家飲み需要が高まり、ビール類の売上げが伸びている。
- ・緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の影響で衣料品販売が厳しくなっている。

【諸経費】

- ・感染症の影響によるチラシ回数抑制で広告宣伝費が削減された。
- ・諸経費は増加している。
- ・改装に伴う諸経費が増加した。

【採算性】

- ・採算性はあまり変わらなかった。
- ・採算性は悪化した。

【今後の見通し】

- ・景況感は悪い方向に向かうとみている。
- ・長引く感染症による景気悪化で悪い方向に向かうとみている。
- ・感染症の収束次第のため、どちらともいえない。

(3) 商店街

【景況感】

- ・外出自粛やイベントが中止となり、不況である。
- ・景況感は不況である。

【来街者】

- ・前年同期は感染症の影響があり、前年同期比では低いままであまり変わらない。
- ・来街者は減少した。

【個店の状況】

- ・ゴールデンウィークには各店少し人出も見られた。
- ・各店舗売上げが減って厳しい状況である。

【商店街としての取組】

- ・一部イベントは4月に実施した。
- ・計画はしていたが、緊急事態宣言等もあり特に実施しなかった。

【今後の見通し】

- ・感染症次第であり、どちらともいえない。
- ・オリンピック景気というのも考えられない。
- ・今後の見通しは悪い方向に向かうとみている。

3 情報サービス業

【景況感】

- ・ワクチンの普及によるコロナ収束が期待され、情報化投資が徐々に回復していく見込だが、現時点では景況感は普通である。
- ・景況感は好況である。
- ・景況感は不況である。

【売上高】

- ・民間企業のIT設備投資の需要は継続しており、前年同期比で売上高は増えた。
- ・売上高は前年同期比で増加した。
- ・売上高は減った。

【製品価格】

- ・受注単価はほとんど変わらない。
- ・カスタマイズ製品が多く受注内容で異なるため、ほとんど変わらない。

【採算性】

- ・各要員の有償案件稼働率が高まってきたことから収益性は良くなった。
- ・Web会議の利用等により接待交際費や交通費等の経費が圧縮されたが、全体として採算性はほとんど変わらない。
- ・採算性は悪くなった。

【設備投資】

- ・社内使用システムの改善、新規導入を実施する。
- ・オフィス内のレイアウト変更を実施した。
- ・大きな投資は予定していない。

【今後の見通し】

- ・景況感の良い方向に向かうとみている。
- ・ワクチン接種スピードとその効果によって大きく左右されるため、今後の見通しはどちらともいえない。

4 サービス業（旅行業）

【業界の動向】

- ・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置があり、厳しい状況が続いている。
- ・廃業は少ないが、開店休業中が多い。
- ・今後廃業が増加する可能性もある。

【景況感】

- ・景況感は不況である。

【受注高】

- ・前年は緊急事態宣言の発令があったため、前年同期比では10%程度増加した。
- ・前々期比では80%程度減少した。

【受注価格】

- ・受注価格は下がった。

【採算性】

- ・受注減少の影響により採算性は悪化している。

【設備投資】

- ・実施していない。

【今後の見通し】

- ・感染症の状況とオリンピック開催可否次第で大きく変わるため、今後の見通しはどちらともいえない。

5 建設業

【業界の動向】

- ・企業数の増減に大きな変化はないが、災害関連など仕事量は増えている。
- ・近隣同業で事業承継が要因の廃業があった。

【景況感】

- ・感染症の影響で都内から近接県への人口流入が増えており、商談は好調に推移している。
- ・景況感は普通である。

【受注高】

- ・前年は4月に落ち込みがあったので、売上高は増加した。
- ・受注は前期比、前年同期比ともに増加した。
- ・売上高はほとんど変わらない。

【受注価格】

- ・材木の価格上昇があり、受注価格も上昇した。
- ・受注価格はほとんど変わらない。

【資材価格】

- ・鋼材の価格が前期比、前年比ともに上昇した。
- ・木材価格が上昇した。

【採算性】

- ・販売価格の上昇によりコスト増加分を吸収できたため、採算性も良くなった。
- ・採算性はほとんど変わらない。

【今後の見通し】

- ・売り物件の減少により先行きは見通せない。
- ・今後の見通しはどちらともいえない。
- ・コロナ禍の長期化により、今後廃業が増える可能性がある。